



左がクリストフ・ハルトマン（ベルリンフィル・オーボエ奏者）、右がギイ・レジェール（レジェール・リード社長）の両氏。この夏の国際ダブルリード・フェスティバル東京大会の会場で。

◎ベルリンフィルハーモニー管弦楽団オーボエ奏者

クリストフ・ハルトマン *Christoph Hartmann*

◎レジェール・リード社長

ギイ・レジェール *Guy Légère*

でフランスのトリオを演奏しました。このときはまだ市販はせず、今回、東京コンファレンスの前にクリストフにカナダに来て最終チェックをしてもらい、OKが出たところで正式に発売に踏み切ったわけです。

ポイント、
2枚を貼り合わせる
技術の開発だった

開発段階でレジェールを最初に吹いたとき、ハルトマンさんはどんな印象を持ちましたか？

ハルトマン トランペットのようなサウンドがしたのを覚えていて（笑）。それに、レコを引てもチューブがなく、チューブとリードが一体となった形に驚きました。でも一番ビックリしたのは、オーボエのリードのようにきちんと振動したこと。振動自体は普通のケーンと同じで、違いは、通常のケーンのリードより表皮をたくさん取り除いたような振動の仕方だったというだけ。だから「これはとても可能性がある」と感じました。

でも、そこが長かった。私は演奏家だしギイ（レジェール氏）は技術者。お互いに感じたことを相手に伝える言葉に翻訳してコミュニケーションをとるのが一番難しかったかも知れない。

レジェール プログラムやツール（治具）など、すべて一からの開発でした。技術的に特に難しかったのは、2枚のリードをレコやって完璧に合わせるか、ということでした。

——ケーンのリードのようにびったり重ね合わせればいいというものではないと。

レジェール それが非常に難しいのです。少しでも合っていないと漏れが出来て音